

合掌造りの見どころ

白川郷は、合掌造りと呼ばれる急勾配の茅葺き屋根の大きな家屋でよく知られている。造りは「建築」、合掌は両手を合わせて祈るときにできる三角形の形を意味している。

このような住宅様式が白川郷の村人によって採用されたのは、急勾配の屋根が雪を落としやすいためである。さらに、大きな屋根裏は村の主要産業である養蚕の作業場として使われた。屋根裏は何層にも仕切ることができ、可能な限り広く養蚕のためのスペースを確保することができた。また、妻側の大きな窓からは光と風を通しやすく、蚕にとって理想的な環境を作り出した。

家の地上階はプロの大工によって木造で建てられたが、屋根は村人たち自身によって建てられた。山で栽培された葦を何千本も束ねて葺いた屋根は、数十年ごとに 200 人も村人が 1 日かかりで葺き替えを行った。この伝統は、地元企業の協力を得て、形を変えながらも現在も続いている。

現在、白川郷や富山県の五箇山には、1700 年代までさかのぼる合掌造りの家屋が残っている。白川郷の野外博物館 合掌造り民家園には、保存状態の良い合掌造りの民家が数軒保存されており、見学することができる。